

監査役等から会計監査人に対する質問例 ～会計監査人とのコミュニケーションの活性化に向けて～

今般、公認会計士・監査審査会（以下「審査会」という。）は、平成 27 年の「監査事務所検査結果事例集」を取りまとめたところである。

本事例集においては、企業及び企業環境の理解を通じた監査のリスクの評価とその対応、会計上の見積りの監査等に係る指摘が多く見られている。

また、本年においては、会社法の改正やコーポレートガバナンス・コードの策定などコーポレート・ガバナンスの強化が行われており、その中では、監査役等に対する会計監査人の選解任議案の決定権の付与や会計監査人の選定評価基準の策定が求められるなど監査役等についてもその機能強化が図られている。

監査役等がこれらの職責を十分果たすためには、会計監査人とのコミュニケーションが重要であり、本年 5 月に公表された日本公認会計士協会監査基準委員会報告書 260「監査役等とのコミュニケーション」においても、会計監査人に対し、監査役等とのコミュニケーションの一層の充実を図ることが求められている。

このような状況に鑑み、審査会は、「監査事務所検査結果事例集」における指摘事項を踏まえ、特に問題と思われる事項等について、監査役等と会計監査人とのコミュニケーションの際の参考となるよう、監査役等から会計監査人に対する質問例を別添のとおり作成したところである。

審査会としては、監査役等が当該質問例を参考にし、積極的に会計監査人とのコミュニケーションを行うことを期待している。

（注）本質問例は、監査役等と会計監査人とのコミュニケーションの活性化に資するために作成したものであり、コーポレートガバナンス・コードにおいて求められている会計監査人の選定評価基準の策定のために作成したものではない。

平成 27 年 7 月
公認会計士・監査審査会

監査役等から会計監査人に対する質問例

監査事務所の品質管理に関する質問例	
1	監査事務所における、監査の品質を向上させるための取組の内容及び頻度を教えてください。また、その取組の実効性を評価し、改善する方法を教えてください。
2	(協会の品質管理レビューや審査会検査において指摘事項があった場合) 指摘事項が発生した根本的な原因は何だと考えますか。根本的な原因の分析を実施していますか。
3	(社員が個人事務所を持っている場合) 個人事務所を営んでいる各社員は、監査事務所における担当監査業務の品質を維持・向上するのに十分な時間をどのように確保し、監査事務所はそれをどのように確かめていますか。
4	協会等からの指摘事項や法人内で発見した監査業務上の問題点に対して実施した改善事項のうち、当社の監査の改善の役に立ったものを教えてください。
5	監査チームが実施した監査手続が監査意見を出すために十分であることを確かめる手続に関して、監査事務所が実施する手続と業務執行社員が実施する手続の両方を教えてください。
6	監査事務所の審査の仕組みを教えてください。また、当期の当社の監査に関し、監査チームが審査担当者と協議した又は審査担当者から指摘を受けた項目及びその内容を教えてください。

当社の監査計画と監査業務に関する質問例	
1	当社の監査を担当する監査チームは、どのような基準で編成されたのですか。
2	当社又は当社の属する業界を取り巻く経済環境や経営環境の変化をどのように捉えていますか。また、期中における変化をどのように捉え、どのように対応することとしていますか。
3	当社又は当社の属する業界を取り巻く経済環境や経営環境を踏まえ、当社グループのどこにどのようなリスクがあると考えていますか。それは、前期からどのように変化していますか。
4	識別した当社グループのリスクに対して、どのような監査手続で対応することを計画していますか。その計画は前期から変更していますか。 (リスクは変化したとしているが計画が前期と同じ場合、)監査計画が前年と同じなのはなぜですか。

当社の監査計画と監査業務に関する質問例	
5	特に重要なリスク(特別な検討を必要とするリスク)を適切に識別していることを、どのように確かめていますか。
6	当社が提供している財務報告に関連する資料は正確に作成されていますか。それをどのように確かめていますか。
7	確認状の発送額と回答額の間には差異が発生した時の監査手続を教えてください。
8	当社グループにおける関連当事者との取引(役員若しくは主要株主又はこれらの者が所有する会社との取引、役員若しくは主要株主の近親者又はこれらの者が所有する会社との取引など)は、どのようなものがありますか。これらに対しては、どのような観点で、どのような監査手続を実施していますか。
9	当社グループの財務諸表における会計上の見積り項目(固定資産の減損、繰延税金資産の回収可能性、貸倒引当金など)にはどのようなものがありますか。それに対し、どのような監査手続を実施していますか。
10	会計上の見積りの監査においては、当社の作成した事業計画等をご覧になることが多いと思いますが、事業計画等の将来予測の合理性については、どのように検討していますか。
11	当社の連結子会社を、どのようなところに重点を置いて、どのような方法で監査していますか。また、子会社の監査人の業務については、何をもとに、どのように評価するのか、業務の報告を日本語以外で受ける場合の対応も含めて教えてください。
12	当社の監査業務で、専門家(IT 専門家、年金数理人、不動産鑑定士など)を利用している項目を教えてください。監査において利用する専門家の業務が適切であることをどのように評価するのですか。
13	当社において、不正が発生しやすい領域はどこだと考えていますか。その不正はどのような時にどのような形で発生しやすいと考えていますか。それらに対して、どのような監査手続を実施していますか。
14	財務報告に係る内部統制の監査の範囲が十分であることを、どのように確かめていますか。また、当社による内部統制の評価手続を妥当と判断するポイントと、判断のために実施する監査手続を教えてください。